



〈雜録〉米國ニ於ケル標準火災保檢率表ニ就テ

瀧谷， 善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 6(1):107*-129

(Issue Date)

1909-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051343>



米國ニ於ケル標準火災保險率表ニ就テ

商學士 瀧谷善一

一、序 說

火災保險率問題ハ我國保險界ニ於ケル一大問題ニシテ根本的解決ヲ要スベキモノナリ、蓋シ保險率算定ノ目的タル、精確ナル保險原價ヲ見出し、竝ニ各被保險者ヲシテ危險ノ度ニ應ジテ公平ナル負擔ヲ爲サシムルニ在リ、之ニ依リテ以テ一方ニ於テハ保險者ハ其營業ノ基礎ヲ確實ニスルヲ得ベク、他方ニ於テハ危險大ナルモノニハ高キ保險料ヲ課シ、危險小ナルモノニハ低キ保險料ヲ課スル結果、建築ノ改良、防火設備ノ完成ヲ促シ一國ニ於ケル火災損害ヲ輕減スル

コトヲ得ベシ、而シテ此ノ如キ精確ナル保險料ヲ算出スルニハ學理ト經驗トニヨリ火災危險ニ影響ヲ及ボス諸種ノ事情ヲ細密ニ分類研究シ、各事情ノ危險ヲ増減スル度ニ應ジテ料率ノ増課又ハ控除ヲ爲スニ若クハナシ、此ノ如クニシテ保險率ヲ算定スルコト、セバ、前述ノ利益ノ外保險者ハ保險契約ヲ爲スニ當リテ保險料算出上斟酌スベキ凡テノ危險ヲ遺漏ナク考量スルコトヲ得ベク、又保險契約者ハ其保險料ノ正當ナル基礎ノ上ニ立ツモノナルコトヲ知ルノ結果保險者ニ對スル偏見ト誤解トヲ打破スルニ至リ、火災保險業發達ノ上ニ甚ダ好影響ヲ及ボスベキナリ。

北米合衆國ニ於テハ火災保險業ノ盛大ニ行ハル、丈ケアリテ、此種ノ研究大ニ進歩シ、終ニ一八九三年 Moore 氏監修ノ下ニ稍學理的ナル保險率表ノ編成ヲ遂ゲ更ニ又 Dean 氏ノ保險率表ノ編成ヲ見ルニ至レリ、而シテ前者ハ主トシ

テ東部諸國ニ行ハレ、後者ハ主トシテシカゴ以西ニ行ハレ共ニ斯界ノ賞讃ヲ博シツ、アリ、此ニハムーア氏ノ保險率表ノ要項ヲ、主トシテ同氏ノ名著 *Fire Insurance and How to build* ニヨリテ解説シ以テ我國火災保險率研究者ノ參考ニ供セント欲ス。

二、標準保險率表ノ制定

標準保險率表 (*The Standard Universal Schedule for rating Mercantile Risks*) 一八九三年合

衆國ニ於ケル主ナル火災保險會社ノ代表者ヨリ成レル委員會 (ムーア氏其委員長タリ) ノ制定セル所ニシテ、過去五年間ニ於ケル各會社ノ經驗ヲ基礎トシ、保險金額百弗ニ對シ損害填補額、各種準備金、營業費ヲ支拂フテ尙五分ノ利益ヲ殘ス爲メニハ如何ナル保險率ヲ適用スベキヤヲ算定セルモノナリ、コレガ制定ハ一八九一年ニ着手セル所ニシテ日月ヲ要セルコト二ケ年、前後六回委員大會ヲ開キテ、草案ヲ討議シ更ニ英

國、米國及ビ加奈陀ノ各保險業者ニ其草案ヲ示シテ批評ヲ求メ、最後ニハートフォード及ビ紐育ノ大會ニ於テ各地方ヨリ來レル提議ヲ審查シ終始多クノ専門家ノ意見ヲ徵シテ慎重ナル考量ヲ經タルモノナリ

初メ委員會ノ第一草案ニ於テハ料率表ノ簡單ヲ旨トシ附加率又ハ控除率ヲ細別スルコトヲ避ケタリ、サレドカクノ如ク建物ノ缺點ニ對シ一附加率ヲ設ケズ、又其完備セル點ニ對シ一控除率ヲ施サルハ決シテ善良ナル建築ヲ獎勵スル所以ニ非ズ、且ツヤ此ノ如ク簡單ナル料率表ハ之ヲ編成スルニハ月日ヲ費スコト大ナラズシテ大ニ手數ヲ省クコトヲ得ベケンモ、其適用ニ當リテハ一々特殊ノ事情ヲ酌量セザルベカラズシテ同一ノ危險モ其局ニ當ル人ノ手加減ニヨリテ料率ニ差等ヲ生ズル等ノ不公平ヲ來シ、且往々ニシテ大ニ危險ヲ増加スベキ缺點ヲモ看過シテ保險者ノ損失ヲ招クノ恐アルヲ以テ第三

草案ヲ編成スルニ當リテハ料率表ヲ簡單ニスルノ主義ヲ捨テ、保險料ノ算出及ビ保險金額ノ決定ニ必要ナル凡テノ事情ヲ考察シテ精細ナル率表ヲ作ルコト、シ同時ニ其率表ノ不當ニ冗漫トナルコトヲ恐レテ實際ニ必要ナキモノハ一切率表中ニ掲ゲザルコト、シテ研究ヲ進メタルナリ。

此保險率表ハ今ヤ紐育、ボストン、フィラデルフィア、デンプアー、クリーブランド、ニュー、オルレアン、スクラントン、ピッツフィールド、アルバニー、サン、アントニオ等ヲ主トシ、其他一般東部諸州ニ行ハレ、良好ナル結果ヲ收メツ、アリ、殊ニ本表ヲ施行セル地方ニ於テ火災損害ノ減少ヲ來セルハ注意スベキ現象ナリ、而シテ一般ノ傾向ハ此等ノ率表ヲ簡單ニスルヨリハ寧ロ一層細別シテ増率又ハ減率ノ項目ヲ多カラシメンコトヲ欲スガ如キ狀態ナリトイフ。

三、標準保險率表ノ組織

標準保險率表ノ組織ノ大要ハ次ノ如シ。

- 一 外圍ノ狀態ノ標準、即チ標準市ノ設定
- 二 建物ノ標準、即チ標準建物ノ設定
- 三 標準市及ビ標準建物ニ符合セザル市及ビ建物ニハ其事情ニ從ヒ或ハ増率ヲ課シ又ハ減率ヲ行フコト及ビ之レガ増減率表ノ編成
- 四 建物ノ在中物及ビ外接狀態ノ如何ニヨリ料率ヲ增課スルコト、而シテ在中物ニツキテハ其建物ノ危險ヲ増加スル性質ト、建物ノ危險ヲ増加スルコトナク單ニ在中物自身ニ固有ナル危險ノ性質トヲ區別スルコト
- 五 消防設備ニ對スル取扱ハ次ノ三段ニ分ツコト

- (イ) 類焼又ハ大火ノ危險ニ備フル設備ノミヲ有スルモノニハ最小率ノ控除ヲ行フ
- (ロ) 右ノ外ニ水道又ハ消火機關室ニ接近シ

又ハ水管大ナル等ノ事情ニヨリ防火ノ效ヲ充分ニ享ケ得ベキモノニハ大ナル控除ヲ行フ

(ハ)建物ニ對スル效力ト其中ニ在ル貨物ニ對スル效力トヲ區別ス

六 共同保險及ビ不利ナル法制ニ關スル考察

七 建物率ト其中ニアル貨物率トノ間ニ區別

ヲ設クルコト。蓋シ外接狀態、建物ノ構造、消防設備、及ビ在中物自體ノ危險ハ建物ニ對スルト在中物ニ對スルトニヨリ同ジカラザレバナリ

八 損害額ニ應ズル保險料割戻制度

以下此等ノ組織ヲ保險料算出ノ場合ニ適用スベキ順序ニ從ヒ細說セン。

イ 標準市 (Standard City)

標準市トハ一定ノ防火條件ヲ具備スル標準的市街ヲイフ、此等ノ條件ノ重ナルモノハ一定ノ水道ノ敷設、及ビ其水量、給水本管ノ一定數、

水管ノ或度ノ大サ、人口稠密ノ度ニ應ゼル一定數ノ消火機關ノ備付、各消火機關ニ附スベキ一定ノ人員、及ビ一定數ノ鉤、竝ニ梯子車、一定式ノ道路及ビ道幅、延燒危險アル外圍ノ狀態ノ存在セザルコト、有給消防隊ノ設置、警火電話ノ架設、有力ナル警察制度、建築條例ノ實施、地方團體又ハ州ノ不當ナル課稅ナキコト、及ビ過去五年間保險金額千弗ニ付損害高一年五弗ニ達セザルコト等ナリ、殊ニ最後ノ火災歴史ヲ考察中ニ入レタルハ大ニ注意スベキコトナリ、蓋シ過去ノ火災歴史ハ其市ニ於ケル心的危險 (Mortal hazards) 及ビ不明ノ危險ヲ含ムコト多ケレバナリ。

ロ 標準建物 (Standard Building)

標準建物ニニアリ、不耐火建物ノ標準及ビ耐火建物ノ標準是ナリ、標準保險率表ニハ此兩者ニツキテ一々詳細ナル説明アレド此兩率表ノ組織ハ略同一ナルヲ以テ本解説ハ凡テ不耐火建物

ニツキテ述ベントス。

標準建物トハ一定ノ防火條件ヲ具備スル標準的建物ヲイフ、其條件ヲ置ケル重ナル點ハ壁ノ材料厚サ及ビ位置、上階下階ニ於ケル壁ノ厚サノ差、建坪、建物ノ高サ、床ノ材料、厚サ及ビ構造、梁、大梁、小柱、及ビ大柱ノ材料竝ニ太サ、昇降器、及ビ階段ト他ノ室トノ隔壁、戸及ビ窓ノ外部ニ面スル場所ノ設備、煙突ノ構造、床板ノ位置、燈火暖火ノ種類、軒蛇腹及ビ屋根ノ材料、間仕切又ハ壁ノ狀態ニヨル一定ノ設備等ニ關スルモノナリ、而シテ標準建物ニ符合セザル點ハ如何ナルコトニテモ常ニ附加率ヲ課セラハ、ヤトイフニ必ズシモ然ラズ、唯標準建物ハ火災ニ對シテ普通ニ良好ナル建物ノ模範ヲ示シテ爾後家屋ヲ建築セントスル者ニ指定ヲ與ヘタルニ過ギズ、而モ、理想的耐火建物ヲ以テ唯一ノ標準建物トナサズシテ特ニ前述ノ如ク普通ニ良好ナル建物ヲ以テ不耐火建物ノ標準トシタル

所以ニアリ、(一)理想的耐火建物ハ稀有ノコトナリ、從ツテ之ヲ以テ唯一ノ標準建物トセバ此條件ヲ具ヘザル多クノ建物ニ對シテハ常ニ其缺點ニ相當スル附加率ヲ適用セザルベカラズ、是レ甚ダ多數ヲ要スルコトナルヲ以テ寧ロ標準建物ノ條件ヲ普通多ク存在スル位ノ程度ニ採リ之レヨリ良好ナル條件ヲ有スル少數ノ建物ニ對シ其特長ニ相當スル控除率ヲ適用スルノ簡ナルニ過ギズ、(二)附加率制ヲ採ル時ハ保險者ガ其缺點ヲ看過スルカ又ハ課率ヲ忘ル、時ハ保險料ノ損失ヲ來スニ反シ控除率制ヲ採ル時ハ建物ノ特長ヲ看過シテ夫レニ對スル控除ヲナサレバ反ツテ保險者ノ利益トナルナリ、標準ヲ通常トナシ其以上ニ良好ナル狀態ニツキテハ控除率ヲ適シ敢テ理想的標準ヲトラザル場合以下屢アリ、其理由皆此ニ說ケルニ等シキヲ以テ一々更子テ説明セザルベシ。

ハ 基本率 (Key-rate)

基本率トハ標準率ニ於ケル標準建物ノ保險料ニシテ本表ニ於テハ之レヲ二十五仙ト定ム、凡テノ保險料算出ハ之レヲ基本トシ、其保險ノ目的ノ狀態ニヨリテ此率ニ附加率ヲ課ス、此等附加率ノ算出ニハ數多ノ率表ヲ要ス、左ニ順次コレヲ説明スベシ。

II 市街率表 (City Schedule)

市街率表トハ市街ノ狀態ノ標準市ト異レル如何ナル點ニツキ幾何ノ附加率又ハ控除率ヲ課スルカヲ明細ニ記述セル表ヲイフ、即チ此表ハ市街水道ノ種類、水量、「ポンプ」所在地ノ火災ニ冒サル、危險ノ度、給水本管及ビ水管ノ狀態消火機關ノ存否、及ビ其地域ニ比例スル數、送水管ノ長サ、警火電話ノ存否、警察組織ノ完否消防隊制度、消防夫ノ員數、消防指揮官ノ存否、市街道路ノ狀態及ビ廣サ、建築條例及ビ爆發物貯藏取締法ノ存否、市街鐵道電流通路ノ方式、延燒危險ノ度、燃料、風力、火災歴史、其他特ニ其

市ニ於ケル缺點等ノ各項ニツキ標準市ノ條件ニ適セザル度ニ應ジ夫々基本率ニ加ヘラルベキ附加率三十一種ヲ規定セリ、之ニ反シテ化學作用ニヨル消火機關ノ備付、消火機關及鉤、梯子ノ豫備ニ存在スルコトハ其市ノ火災危險ヲ減少セシムルモノナルヲ以テ此等ノ設備ニ對シテハ各上述ノ附加率ヲ基本率ニ加ヘタル合計ノ或歩合ヲ控除スベキモノトセリ、而シテ此ニ控除率ヲ附加率ト基本率トノ合計ニツキ或歩合ヲ以テ課スル所以ハ此等ノ特殊設備ノ效力ハ市街ノ防火設備ノ完否從ツテ其市街率ノ大小ニ比例スレバナリ。

ホ 建物率表 (Building Schedule)

建物率表トハ建物ノ狀態ガ標準建物ト異レル如何ナル點ニツキ幾何ノ附加率又ハ控除率ヲ課スルカヲ明細ニ記述セル表ヲイフ、即チ此表ハ保險ノ目的タル建物ノ壁、劃壁、入口、屋根、床、天井、側被覆、建坪、高サ、昇降機、階段

艙口、卸樋、Well-holes, Chutes, Dumb-waters,
 Ventilating Sheats, Belt holes, 天窓、軒蛇腹、木
 製雨除、燈火、暖火、煙突、市街通路、電線、
 住居者又ハ職工ノ數、建物ノ年齡、窓間壁、柱、
 消火汽罐ノ動力、等ノ標準建物ニ及バザル缺點
 ニツキテ夫々附加率ヲ定ムルコト七十有餘ニ上
 レリ、而シテ他方ニ於テハ保險ノ目的タル建物
 ノ地下室ヲ有セズ、建坪及ビ高サノ一定額以下
 ナルトキ、床、天井及ビ間仕切、Parapet wall ノ
 一定狀態ニアルトキハ夫々控除ヲナスベキ歩合
 ヲ定ムルコト十ニ及ベリ。

へ 在中物率表 (Occupancy Table)

在中物率表トハ建物中ニ存在スル物ノ火災危
 險ノ度ニヨリ附加率ヲ定メタル表ヲイフ、凡ソ
 物ノ火災危險ニ三ノ區別アリ、一ハ其物が自ラ
 發火スルノ危險ニシテ(例ヘバ油ノ發火危險ノ
 如シ)二ハ自ラ發火スルカ又ハ他ヨリ發火ノ勢
 ヲ受クルトキハ容易ニ燃燒シテ火災ヲ擴延スル

危險ナリ(例ヘバ家具、材木ノ燃燒危險ノ如シ)
 三ハ自ラ發火又ハ燃燒スルト否トニ拘ラズ火災
 ノ際、煙又ハ水ニヨリテ損害ヲ受クベキ危險ナ
 リ(例ヘバ刃物類ノ損害危險ノ如シ)此等ノ内第
 一ト第二トハ物其自身ノ有スル危險タルト同時
 ニ之ヲ包藏スル建物ノ等シク感ズル危險ナリ、
 之ニ反シテ第三ハ單ニ物其自身ノ危險ニ過ギズ
 シテ之ヲ包藏スル建物ニ何等ノ危險ヲ與フルコ
 トナシ、是ヲ以テ在中物率表ハ各種ノ貨物ニツ
 キ各二欄ヲ設ケ第一欄ニハ第一ト第二トノ危險
 ニ對スル料率ヲ掲ゲ第二欄ニハ第三ノ危險ニ對
 スル料率ヲ掲ゲタリ、是レ實ニ此標準保險率表
 ノ特質ノ一ナリ、此ノ如クニシテ此率表ニ掲グ
 ル貨物ハ其數千二百八十二上リ之レヲ「アルハ
 ベット」ノ順序ニ排列シ且同一貨物モ其綴方ノ
 二種アル場合ニハ之ヲ二ヶ所ニ掲ゲテ索引ニ便
 ニシ(例ヘバ「日本及ビ支那商品」ハ「支那及ビ
 日本商品」ノ場所ニモ掲ゲアルガ如シ)且其順序

ニ從ヒ各貨物ニ番號ヲ附シテ其參照ニ便セリ。

ト 貨物ノ所在、

貨物が全然地平室ニアル場合ニハ一定ノ控除ヲナスハ消火設備等ノ特長ニヨル貨物率控除歩合表(ル)ニ規定スル所ナルガ、此ニイフハ貨物が地上室又ハ地下室ニ在ルトキニ一定ノ附加率ヲ課セラル、場合ナリ、而シテ其附加率ハ其所

在ノ地平室ヨリ上又ハ下ニ階ヲ増スニ從ヒ増加ス、若シ保險ノ目的タル貨物が數階ニ亘ルトキハ各階ノ貨物ニ對スル附加率ノ和ヲ其階數ニテ除シタル商ヲ以テカクノ如キ貨物ノ平均附加率トナス。但シ貨物が地平室及ビ其上下ノ二室ノ三室ニ存在スルトキハ附加率又ハ控除率ヲ課スルコトナシ。

倉庫内ノ貨物ハ其倉庫ノ種類ニ從ツテ其料率ノ或歩合ヲ控除セラル、是レ其中物ノ危險少ナキヲ以テナリ。

チ 特別控除率表、

特別控除率表トハ建物ノ特殊ノ構造、消火器及ビ消防機關ノ完備ノ爲メ特ニ建物及ビ其中ニ在ル貨物ノ保險率ニ對シテ爲ス控除率表ヲイフ元來理想的建物及ビ外國ノ狀態ヲ標準ニ採ルトキハカ、ル控除ヲ行フノ必要ナキモ、カクテハ却テ不便不利ヲ來スベキヲ以テ、カク控除率ヲ採用スルニ至リシコトハ前ニモ說ケル所ナルヲ以テ詳說ヲ要セザルベシ。

此標準保險率表ニ於テハ消防設備ヲ三段ニ分チテ取扱フコト、セルハ既ニ述ベタル所ナリ、而シテ其最少限トシテハ市街率表(ニ)ニ於テ一市ノ有スル消防設備ニ對シ其市全體トシテ差等ヲ設クベキコト、セリ、從ツテ其市内ニアル建物ハ消防設備ニ接近セルト否トニ拘ラズ此種ノ消防設備ニ對シテハ同一ノ取扱ヲ受ケタルナリ然レドモ是レ消防設備ノ效力ヲ完全ニ認メタルモノニ非ズ實際ニ於テハ消火栓ノ近傍ニアルト否トハ其消防ノ效力ニ大差アルモノナルヲ以テ

此間ニ區別ヲ認メザルベカラズ、是レ即チ消防設備ノ第二ノ取扱ニシテ此等ノ設備ニ對シテハ控除率ヲ適用シテ第一ノ取扱ノ不公平ヲ補フコト、セルナリ。

貨物ハ通常建物ノ中ニ在ルヲ以テ建物ノ料率ヨリ控除セラルベキモノハ等シク貨物ノ料率ヨリ控除セラル、ヲ原則トス、然レドモ本項ニ於ケル控除ノ原因ヲ尋ヌルニ或ハ建物ニハ火災ノ損害ヲ減少スル效アルモ其中ニ在ル貨物ニハ其效力ナキモノアリ(例ヘバ Self-releasing floor beams ノ如シ)或ハ貨物ニハ火災ノ損害ヲ少クスル效力アルモ之ヲ包藏スル建物ニハ其效力ナキモノアリ(例ヘバ 防火被布ノ如シ)或ハ又等シク消火栓ニ就テモ其建物ニ及ボス效力ト其中ニ存在スル貨物ニ及ボス效力トハ差アリ、此ノ如クナルヲ以テ特別控除率ノ或モノニ付テハ建物ト貨物トニ於テ差異ヲ認メザルベカラズ。

加之、此等ノ特別控除率ニハ或ハ建物ニ特有

ナル消火設備上及ビ建築上ノ特長ニ基クモノアリ、或ハ其市ノ消防設備上ノ特長ニ基クモノアリ、從ツテ建物ニ對スル特別控除率及ビ貨物ニ對スル特別控除率ハ更ニ之ヲ二ニ別チテ取扱フコトヲ要ス。

リ 消火設備等ノ特長ニヨル建物率控除歩合表。
是レ消火栓ニ接近スル度、水管ノ太サ、消火栓ノ狀態、自働警火器、警盜器、出火通知器、化學作用ニヨル消防器、避火裝置、水溜、給水栓ノ設置、消防隊及ビ消火機關庫ニ接近スル度、地下室、又ハ穴倉ニ於ケル散水消火器、又ハ自働消火器ノ設備、建物使用ノ目的、夜警人、夜警報器、又ハ電氣警報器、屋上消火栓、豫備的防火設備、及ビ Self-releasing floor beams 等ノ設備ヲ有スルトキニ各設備ニ從ヒ一定ノ控除ヲ爲スベキ歩合ヲ掲ゲタルモノニシテ其項目凡三十ヨリ成ル。

又 市設消防設備ノ特長ニヨル建物率控除歩合

表。

コレ一定數以上ノ豫備消防機關、水塔 Fire boat、ノ存在及ビ Gravity pressure ノ狀態ニヨリ其恩惠ヲ受クベキ建物ニ對シテ課スベキ控除歩合ヲ定メタル表ナリ。

ル 消火設備等ノ特長ニヨル貨物率控除歩合表。

貨物ハ通常建物中ニ存在シ共同ノ危險ヲ有スルコト多キヲ以テ、前記(リ)ニ於ケル建物率ノ控除原因ノ多クハ又本表ニ於ケル貨物ニ對スル控除原因ヲナスモノナリ、唯異ナル點ハ水道栓ニ關スル控除率、其建物ヲ商店ニ使用スル場合ニ於ケル控除率、夜警人及ビ屋上消火栓ニ關スル控除率ガ建物ノ場合ニ於ケルト率ニ於テ差アルト、Self-releasing floor beams ニ對スル控除ナキ代リニ貨物救援隊ヲ市設トセル場合、防火被布又ハ錫箱ニテ貨物ヲ覆フ場合、貨物ガ Shields 又ハ Platform 上一定ノ高サニ存在スル場合、商品ノ地平室ニ存在スル場合等七十以上ノ場合ヲ指

定シテ各一定ノ控除歩合ヲ掲ゲタル表ナリ。
ヲ 市設消防設備ノ特長ニヨル貨物率控除歩合表。

此表ニヨリ控除ヲ受クベキ特長トハ前掲(ヌ)ニヨル建物率控除ニ對スル特長ト同一ナリ、唯彼ト是トハ控除率ニ於テ少シク差アルノミ。

ワ 外接狀態。

一市ニ於ケル建物全體ガ外圍ノ狀態ニヨリ概シテ一樣ニ被ルベキ危險ニツキテハ其標準市ト異ナル度ニ應ジ料率ノ附加ヲ行フベキコトハ已ニ市街率表(ホ)ニ於テ述ベタル所ナリ、此ニイフ外接狀態トハ或特定ノ建物又ハ貨物ガソレニ近接セル建物又ハ貨物ノ爲ニ被ルベキ危險ノ狀態ヲ指スモノナリ、即チ外接物トノ距離、二ノ建物ノ比較的高サ建坪及ビ形狀、壁ノ厚サ、窓ノ數、及ビ防火の設備、屋根ノ材料其他ノ建築上注意スベキ點及ビ在中物ノ性質(例ヘバ油類ヲ藏スル建物ノ近傍ニアル建物ノ危險ハ玩弄物ヲ

納レタル建物ノ近傍ニアル建物ノ危険ヨリ大ナルガ如シ）其他公私設ノ防火設備、等ハ外接狀態ノ危険ヲ定ムルニ當リテ考量スベキ重ナル點ナリ、殊ニ危険多キ在中物ヲ有スル建物又ハ廣大ナル建物ニ接スル建物ニツキテハ此點ニツキ充分ノ附加率ヲ課スルコトヲ要ス、又カクノ如キ廣大ナル建物ノ累集シ而モ充分ナル水道ヲ具ヘザル地方ニアリテハ特ニ類燒ノ危険ニツキ注意ヲ拂ハザルベカラズ。

カ 自動消火器 (Automatic Sprinkler)

自動消火器ノ設備ハ之ヲ四種ニ區別シ其濕管式タルト乾管式タルトヨリ、又其建物ニ對スルト在中物ニ對スルトニヨリ其控除率ヲ異ニセリ又此等ノ設備ノ效力ハ共同保險ノ多少ニヨリテ異ナルヲ以テ此率表ハ先ヅ八割共同保險ヲ基礎トシテ其控除歩合ヲ定メ、若シ共同保險ノ歩合ガ八割ニ非ザル時ハソレニ應ジテ自動消火器ニヨル控除率ニ斟酌ヲ加フルコト、セリ。

此他建物ノ外部ニ裝置セル消火器ニ對シテモ一定ノ場合ニハ控除ヲナスコト、セリ。

自動消火器ニ對スル控除ハ他ノ建築物竝ニ消防設備ニヨル凡テノ控除ノ行ハレタル後ニ爲サル、理由ニアリ。(一)被保險者ハ上述ノ凡テノ附加率及ビ控除率ヲ施シタル上ノ保險料ヲ知リ自動消火器ノ裝置ヲナスニヨリテ幾何ノ保險料ノ控除ヲ受ケ得ルカラ確ムルニアラザレバ、カカル高價ナル裝置ヲナサルコト。(二)保險者モ亦凡テノ他ノ消防設備及消火器ニ對スル控除ノ爲サレタル後ニアラザレバ、自動消火器裝置ノ價值ヲ決スルコト能ハザルコト是ナリ。

三 共同保險 (Co-insurance)

我國商法ノ如ク按分填補主義即チ損害填補額ハ損害額ニツキ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ヲ以テ定ムル主義ヲ採ル國ニ於テハ被保險者ハ保險金額ノ保險價額ニ達セザル部分ニツキテハ常ニ自ラ保險者ト同地位ニアリテ危険ヲ分擔

スルモノナリ、之ニ反シテ英、米、ノ如ク實損額填補主義ヲ採ル國ニアリテハ特別ノ合意ナキ限りハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合如何ヲ論ゼズ。保險金額ヲ限リトシテ實際損害額ノ全部ヲ支拂フモノナルヲ以テ被保險者ハ毫モ危險ヲ分擔スルコトナシ、然ルニ火災保險ニ於ケル損害ハ多クハ一部損害ニシテ全損ハ比較的少キヲ以テ實損額填補主義ヲ採ル場合ニハ保險契約者ハ普通ニ生ズベキ損害ノ填補ヲ受ケ得ベキ範圍内ニ於テ成ルベク保險金額ヲ少クシ、一方ニ於テハ普通ニ生ズル一部損害ニ付テハ實際損害ノ全部ノ填補ヲ受ケ、他方ニ於テハ保險料ヲ節約セントスルハ當然ナリ、蓋シ二萬圓ノ保險價額ヲ有スル建物ニ二萬圓ノ保險ヲ附スルモ一萬圓ノ保險ヲ附スルモ其損害額ガ八千圓ナル場合ニハ實損額填補主義ニヨレバ共ニ八千圓ノ損害填補ヲ受ケ得ベク、而モ二萬圓ノ保險ヲ附セル場合ハ一萬圓ノ保險ヲ附セル場合ノ二倍ノ保險

料ヲ出サバルベカラザレハナリ、是レ兩保險ヲ取扱フニ公平ヲ得タルモノニアラザルヲ以テ多クノ國ニ於テハ按分條項 (Average Clause) 又ハ全額共同保險條項 (Full co-insurance Clause) ヲ約款中ニ置キテ實損額ニツキ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ヲ以テ填補額ヲ定ムルコト、セリ、即チ前例ニ於テ二萬圓ノ保險ヲ附セル者ハ八千圓ノ損害填補ヲ受クルコトヲ得ルモノ一萬圓ノ保險ヲ附セル者ハ四千圓ヨリ填補ヲ受クルコトヲ得ズトシテ兩保險間ノ權衡ヲ保タシメ且不足保險ヲ少クセントシタルナリ、然ルニ米國ニテハ全額共同保險ノ外歩合共同保險 (Percentage co-insurance) トイフモノアリ、例ヘバ八割共同保險トイヘバ保險金額ガ保險價額ノ八割ニ達セザル場合ニハ其八割ニ達セザル不足額ニツキテハ被保險者ハ自ラ保險者ト同地位ニアリテ危險ノ分擔ヲナサバルベカラズトスルモノナリ、即チ前例ニヨリテ説明スレバ保險ノ目的ノ保險價

額ガ二萬圓ナリトセバ八割共同保險ニ於テハ一萬六千圓丈ケハ保險ニ附セザルベカラズ、從ツテ前例ノ如ク八千圓ノ損害ノ生ゼル場合ニハ二萬圓ノ保險ヲ附セル者ハ損害額全部ノ填補ヲ受ケ得ベキモ、一萬圓ノ保險ヲ附セル者ハ一萬六千圓ニ對スル不足部分即チ六千圓丈ケハ自ラ危險ノ分擔ヲナサルベカラズ、其結果彼ガ保險者ヨリ填補ヲ受クベキ金額ハ八千圓ノ十六分ノ十即チ五千圓ニシテ殘額三千圓ハ八割共同保險ヲ勵行セザリシ爲メニ自ラ負擔セザルベカラザル部分ナリ、此場合ニ於テ若シ八割共同保險ノ代リニ五割共同保險ノ合意アリタランニハ保險契約者ノ其保險ノ目的ニツキ保險スベキ金額ハ二萬圓ノ五割即チ一萬圓ナレバ前例ニ於ケル一萬圓ノ保險ヲ附セル者モ八千圓ノ損害填補ヲ受クルコト、ナルナリ、サレバ共同保險ノ歩合如何ハ損害填補額ニ影響ヲ及ボシ其割合ノ少キ場合ニハ保險金額ノ保險價額ニ對ス場合少キモ猶

小額ナル損害ニツキテハ全部保險ヲ爲セル者ト同一ノ填補ヲ受クルコト、ナル次第ナリ、是ニ於テカ共同保險ノ歩合ヲ一定スベシトノ議論モアレド米國ニテハコレヲ一定セズ、保險契約者ノ望ニ應ジテ如何ナル歩合ノ共同保險ヲ爲スモ可ナリトシ、唯其共同保險ノ歩合ノ大小ニヨリ保險料ニ差等ヲ設ケ、其歩合ノ大ナルモノハ其小ナルモノヨリモ低キ保險料ヲ課スルコト、シテ保險價額ニ對シ多クノ保險ヲ附セル者ト少キ保險ヲ附セル者トノ間ノ不公平ヲ避ケントセルナリ。

標準保險率表ハ五割共同保險ヲ基礎トシテ算定セル保險料率ナルヲ以テ保險契約ニ共同保險條項ヲ含メル場合ニハ本表(ヨ)ニヨリ五割以下ノモノニハ更ニ保險料率ヲ増シ五割以上ノモノニハ其割合ニ應ジテ保險料率ノ控除ヲ爲スコトトセリ、而シテ共同保險ノ必要ハ一部損害ノ場合ニ甚ダ切實ニ感ゼラル、ヲ以テ消防機關ノ完

備セル市街(カ、ル市街ニテハ一部損害多シ)ト然ラザル市街トノ間ニ於テ控除ヲ行フベキ率ヲ異ニシ、且前者ニ於テハ建物ト其在中物トニヨリテモ控除率ニ差ヲ設ク。

共同保險ニ就テノ控除(稀ニ増率)ヲ以上各種ノ他ノ控除又ハ増率ヲナセル後ニ於テ行フ理由ニアリ。(一)共同保險ノ價值ハ保險者ヨリ見ルモ被保險者ヨリ見ルモ、保險ノ目的ノ建築ノ方法消防設備等ヲ參酌シ、其部分損害ノ大小ニ應ジテ定メタル最後ノ保險料ノ多少ニヨリテ決セラルベキモノナレバナリ。(二)或州ニテ行ハレタルガ如ク共同保險條項ヲ約款中ニ挿入スルヲ不當ナリトシテ、之ヲ認メザルニ至ルモ此共同保險ニヨル控除率ヲ最後ニ適用シテ保險料ヲ算出シタル場合ニハ共同保險條項ノ禁止ニヨリ更ニ保險料ヲ根本的ニ算出シ直ス必要ナク唯共同保險ニ對スル控除率ヲ爲サル儘ノ料率ヲ施セバ可ナルコト、ナリ、新ニ手數ヲ要スルコトナ

シ、加之共同保險條項禁止ノ曉ニハ現今ノ如ク共同保險ニ對スル控除率ヲ受クルコト能ハザル結果トナル次第ナレバ自然カ、ル不利ナル立法ヲナス州ナキニ至ルベシ。

要スルニ本項ニ於ケル控除ハ米國ニ於ケル歩合共同保險制度ノ結果ナレバ我國ノ如キ常ニ按分填補主義ヲ採レル國ニテハ直接ノ用ヲ見ズタ 不當ノ法制ニ關スル料率表

保險業者ノ不利ヲ來スガ如キ法制ニ對シテハ一般人民ガ其負擔ニ任ズベキモノナリトノ主義ヨリ本表ヲ設ク、彼ノテクサス、オハイオ、ウイスコンシン、ニユーハンブシヤイア、アラスカ、等ニ於ケル或種ノ保險ニ對シテ行ハル、定額保險條例(Valued Policy Law)即チ豫メ保險價額ヲ定メタルトキハ損害發生ノ際、實際保險價額ニ等シキ保險ノ目的ノ存在シタリシヤ否ヤヲ問ハズ保險價額ニ等シキ保險ノ目的ガ存在セリトシテ損害填補ヲナスベシトセル結果心の危險ヲ大ナ

ラシメ、保險者ノ損失ノ増加ヲ來スベキ法律ノ如キ、又ハ保險會社協合禁止條例(Anti-compact Law)即チ保險會社ノ協合ヲ禁ズル結果其營業費ノ増加ヲ來スベキ法律ノ如キ、或ハ會社ノ純收入以外ニ稅ヲ課シ又ハ或一定率以上ノ課稅ヲ爲スガ如キ皆不當ノ法制トシテカ、ル法制ノ行ハル、地方ニ於ケル保險料増課ノ原因トセリ

レ 管理上ノ缺點、不注意等ニ對スル料率表

建物ノ標準建物ニ及バザル缺點ニツキテハ建物率表(ホ)ニ規定セル所ナルガ、本表ニ於テハ容易ニ改良シ得ベキ建物管理上ノ缺點、不注意等例ヘハ屑物、灰類ノ不整理、暖爐器、汽罐、電燈、煙筒、Roof-spaces, blind attics, cock-loft、等ノ不備、又ハ昇降器ノ下部ヲ物置ニ使用シ、或ハ灰溜ヲ金屬ニテ作ラザルガ如キモノニツキ一々附加率ヲ定メタリ、蓋シ此附加率ニヨリテ此等ノ不備ヲ改良シ火災ヲ減少セシメントスル主意ニ外ナラズ、而シテ此課率ヲ最後ニ置キタ

ルハ前記不備ノ改良ノ場合ニ保險料ヲ輕減スルニ便利ナルヲ以テナリ。

リ 最低課率

建築ノ方法如何ニ拘ラズ、又其控除率ノ如何ニ拘ラズ、如何ナル建物ニテモ其基本率(ハ)ニ對スル附加率ハ十二仙ヲ以テ最低トス、貨物ノ場合ニハ原荷造ノ儘ナルト否トニヨリテ最低率ヲ異ニシ、前ノ場合ニハ二十五仙トシ、後ノ場合ハ三十仙トス。

ツ 家賃保險

家賃保險料モ大體此標準保險率表ニヨリテ算出スルコトヲ得、即チ標準建物ニ等シキ高サ及ビ建坪ヲ有スル家ガ全額共同保險ヲ附セル場合ニハ本保險率表ニヨル建物率ノ二分ノ一ヲ以テ其建物ノ家賃保險率トシ、其建物ノ高サ及ビ建坪ヲ増スニ從ヒ特ニ附加率ヲ課ス、而シテ共同保險ナキモノニツキテハ家賃保險料ハ建物保險料ト同一額トセリ。

子 保險期間

保險期間ハ凡テ一年ヲ以テ原則トス、唯建物保險及ビ家賃保險ニアリテハ二年又ハ三年等ノ保險契約ヲ爲スヲ得ベシ、此場合ニハ原期間ニ一年ヲ加フル毎ニ、最初ノ保險料ノ四分ノ三ヲ増徴ス、若シ一年以下ノ月ニツキテ契約スルトキハ比例ヲ以テ其期間ノ保險料ヲ定ム。

ナ 保險料割戻制度

此制度ハ實ニ保險料ヲ自然的ニ調整スルモノニシテ、又本保險率表ノ特長ノ一ナリ、元來本料率表ニ於テハ或市ニ於ケル過去ノ火災統計ヲ考量シテ保險料ヲ定ムルコトハ已ニ標準市ヲ説明スルニ當リテ一言シタル所ナルガ、若シ保險期間ニ於ケル其市ノ損害填補額ガ保險料ノ五割五分ヨリ少キ時ハ其少ナキコト一分ニツキ既拂込ノ保險料ノ一分ヲ割戻スコト、シ、此割戻ハ次期ノ保險料ニ繰越スコト、セリ、是レ實ニ市民ヲシテ共同シテ火災損害ノ減少ヲ計ルハ自己

ノ利益ナルノ自覺心ヲ惹起セシメ、從ツテ建築ノ改良、消防組織ノ完備ヲ計ラシムル所以ニシテ、其結果益火災損害ヲ少クスルノ效アリ、而シテ他方ニ於テハ此調整アルガ爲メ、時ニ或ハ生ズルコトアルベキ不當ナル保險料モ自然ニ正當ナル基礎ニ近ヅクコト、ナルナリ。

四、標準保險率表ノ適用

標準保險率表ヲ組織スル要素ニツキテハ既に述べタリ、今如何ニ之ヲ適用シテ或保險ノ目的ノ保險料ヲ算出スルカヲ說ベン。

一 建物ノ保險料算出方法

標準保險率表ニヨル計算ノ基礎ハ常ニ標準市ニ於ケル標準建物ノ率（A）ヲ以テ此率ヲ表ハス）ナリ、而シテ或市ニ於ケル標準建物ノ率（此率ヲLヲ以テ表ハス）ヲ見出スニハ

$$A+B=L$$

Bハ市街率表（ニ）ニヨル附加率ノ合計ヲ表スモノナリ、若シ特ニ其市ノ消防上有利ナル條件

ヲ有スル時ハ市街率表ニヨリLヨリ其或割合ヲ
控除スルコトヲ要ス

此Lハ其市ニ於ケル凡テノ建物及ビ其在中物
ノ保険料ヲ算出スル基礎ヲナスモノナルヲ以テ
之ヲ其市ノ標準率トイフ。

次ニ其市ニ於ケル或建物ノ率(Mヲ以テ之ヲ
表ハス)ハ

$$L + C = M$$

Cハ建物率表(ホ)ニヨル附加率ノ合計ニシテ
建物ガ或條件ヲ滿ス場合ニハMヨリ或割合ヲ控
除シタルモノヲ以テ其市ニ於ケル其建物ノ率ト
スカクシテ得タルMハ其建物ガ何物ヲモ其中ニ
藏セザルトキノ率ナリ、而シテ其中ニ或物ヲ藏
スルトキハ建物ノ危険ヲ増加スルコトアリ、即
チ其時ノ建物率ヲNトセバ、

$$M + D' = N$$

D'ハ在中物率表(ヘ)ノ第一欄ノ料率ナリ、是
レ其在中物ノ發火性及ビ燃燒性ヲ表ハスモノニ

シテ其結果建物ノ危険ヲ増加スレバナリ。而シ
テ若シ在中物數種アリテ其在中物率表ノ第一欄
ノ料率ヲ同クセザルトキハ其最大ナルモノヲ加
フベシ、第二欄ノ料率ハ此ニハ關係ナシ。

此ニ於テ消火設備等ノ特長ニヨル建物率控除
表(リ)ニヨリNニ對スル或歩合(Eヲ以テ表ハ
ス)ヲ控除スルコトニヨリテ其特殊設備ニ對ス
ル效力ヲ認ム。

$$N(1 - E\%) = O$$

更ニ市設消防設備ノ特長ニヨル建物率控除表
(ヌ)ニヨリOニ對スル或歩合(Fヲ以テ表ハス)
ヲ控除ス。

$$O(1 - F\%) = P$$

前二項ニ於テ消火設備及ビ市街消防設備ニ對
スル控除ハ夫々N及ビOニ對スル或歩合ヲ以テ
セリ、是レ此等ノ設備タルヤN及ビOノ大小ニ
比例シテ效力ヲ有スレバナリ、此理ハ以下ノ說
明ニ由テ歩合ヲ以テ控除セル場合ニ一般ニ適用

セラルベシ

カクテ後外接狀態(ワ)ニヨル附加率(G)ヲ以テ表ハス)ヲ課セザルベカラズ

$$P+G=Q$$

Qハ在中物及ビ外接狀態ヲ考察中ニ入レタル或市ニ於ケル或建物ノ保險料ナリ。若シ自働消火器(カ)ノ裝置アルトキハ或歩合(H)ヲ以テ表ハス)ノ控除ヲナス

$$Q(1-H\%)=R$$

カクテ其場合ノ必要ニ應ジ共同保險(ヨ)ニヨリ控除(稀ニ附加、共ニ一ヲ以テ表ハス)ノ歩合ヲ課ス。

$$R(1+H\%)=S$$

Sハ或割合ノ共同保險ヲ有セル建物ノ保險料ナリ、コレニ不當ノ法制(タ)及ビ管理ノ缺點(レ)ニ對スル課率(夫々J.K.ヲ以テ之ヲ表ハス)ヲナストキハ最後ノ建物保險料(T)ヲ得。

$$S+J+K=T$$

勿論一建物ノ保險料ヲ算出スルニ當リテハ前說ノ如ク凡テノ附加又ハ控除ヲ要スルモノニアラズ或率ハ必要ナキニヨリ、或率ハ他ノ名目ノ下ニ既ニ課率セラレタルニヨリ、凡テノ項目ニ就テ課率ハ行ハル、モノニ非ズ。

二 貨物保險料算出方法

建物中ニアル貨物ノ保險料ハ之ヲ包藏スル建物ノ率トハ同一ナラズ、是レ本保險率表ノ特長ノ一ナリ。唯貨物ノ危險ハ其之ヲ包藏スル建物ノ危險ニ大ナル關係アルヲ以テ、其保險料ノ基礎ヲ在中物ヲ有スル建物ノ率(N)ニトシ、即チ。

$$N \cdot \frac{1}{2} (M+A) = D$$

此ニMハ在中物ナキ建物ノ保險料ニシテAハ基本率ナリ、故ニM+Aハ其建物ノ標準市ニ於ケル標準建物ヨリ劣レル事項ニ對スル附加率ナリ、此附加率ノ凡テハ建物ノ危險ノ増加ニ對シテ課セラル、モノナレド、其内ニ包藏セラルハ貨物ハ必ズシモコレト同一ノ危險ヲ被ルモノニ

非ズ、經驗ニヨレバ其附加率ノ四分ノ一ダケハ其建物中ニアル貨物ノ危險ヲ増加セザルモノナルコトヲ知レリ、即チ $\frac{1}{4}(M-A)$ ヲ在中物ヲ有スル建物率(N)ヨリ減ジタル差(U)ハ其建物中ニアル凡テノ貨物ノ基本率ヲナスモノナリ。而シテ上記ノ式ハ更ニ次ノ如ク書換ヘテ適用スルヲ便トスル場合アリ。

$$M - \frac{1}{4}(M-A) + D' = U$$

蓋シMトD'トノ和ガNニ等シケレバナリ、而シテD'ハ在中物料率表第一欄ノ料率ニシテ若シ多クノ在中物アリテ其料率ヲ等シクセザルトキハ其第一欄ノ料率ノ最モ大ナルモノヲトルコト建物率ノ場合ニ述ベタル所ナリ。

次ニ貨物自身ノ火災ニヨル水、煙等ノ爲ニ被ルベキ損害ヲ考量セザルベカラズ

$$U + D'' = V$$

一 D''ハ在中物率表(ヘ)中保險ノ目的タル貨物ノ第二欄ニアル料率ニシテ、即チ水煙等ニヨル損

害ニ對スル附加率ヲ表ハスモノナリ、此損害ノ度ハ各貨物ニヨリテ異ナルヲ以テ一建物中ニ多クノ性質ヲ異ニスル貨物アルトキハ、各貨物ハ此點ニ於テ別々ノ附加率ヲ課セラル、ナリ。

カクテ後貨物ノ所在(ト)ニヨリVニ對シテ地下室又ハ地上室ニ對スル附加率ヲナシ其和ヲWトナス、而シテ若シ此建物ガ倉庫ナルトキハ其種類ニ從ヒWノ一定歩合ヲ控除ス、カクシテ得タル料率ヲXトス。

是レヨリ以後ノ率表ノ適用方法ハ全ク建物ノ場合ニ同ジ、但其率ヲ異ニセルノミ、即チ、

$$X(1-E'\%) = Y$$

E'ハ消火設備等ノ特長ニヨル貨物率控除歩合(ル)ヲ表ハス、次ニ

$$X(1-E'\%) = Z$$

F'ハ市設消防設備ノ特長ニヨル貨物率控除歩合(ヲ)ヲ表ハス、而シテZハ即チ外接狀態ヲ未ダ考察ニ入レザル場合ニ於ケル或建物中ニアル

貨物ノ保險料ナリ、而シテ此率ハ內藏品ヲ有シ而モ外接狀態ヲ考察ニ入レザル建物ノ率(P)ニ比シ少クトモ在中物率表ニ於ケル其貨物ノ第二欄ノ率ノ二割丈ケ多カラザルベカラズ、若シ然ラザルニ於テハ此程度迄増加スベシ。

次ニ外接狀態ニツキテハ建物ノ場合ト其率ハ異ナルモ適用ハ少シモ異ナラズ、以下建物ノ場合ニ於ケルガ如ク順次自働消火器、共同保險、不當ノ法制及ビ管理上ノ缺點ニ對スル附加率又ハ控除率ヲ課スレバ貨物ノ最後ノ保險料ヲ得ベシ。

五、標準保險率表ノ適用例

以上米國標準保險率表ノ大體ヲ述ベタリ、今終リニ臨ミテ其適用ノ實例ヲ示シテ一層本率表ノ解説ニ便セン。

(一) 建物保險率計算

或市ニ於ケル或建物ノ率ヲ算定センニハ先ヅ

A 基本率(ハ)

ニ對シ市街表率(ニ)ニヨリ其市ノ標準市(イ)ニ及バザル點ニツキ左ノ附加率ヲナス

一、水道直壓式ニテ蒸氣力ニヨル

「ポンプ」二個ヲ具フルヨリ

一、「ポンプ」ガ働チナサヤル場合ニ給水スベキ給水柱或ハ貯水所ナキニヨリ

一、消防指揮官ナキニヨリ

一、建築條例行ハレザルニヨリ

一、架空式市街鐵道アルニヨリ

一、天然瓦斯ヲ燃料トスルニヨリ

B 附加率合計

合計

豫備的消火器アルニヨリ五分引

L 其市ノ標準率

次ニ保險セントスル建物ノ缺點ニツキ

建物率表(ホ)ニヨリ附加率ヲ見出セバ

一、壁、標準ニ合ハザル爲

一、屋根、「スレート」ナル爲

二五 仙

四 仙

二 仙

二 仙

三 仙

二 仙

二 仙

一五、

四〇 仙

二 仙

三八 仙

二 仙

二 仙

一、床、普通ナル爲

一、建坪、大ニシテ高キ爲

一、階段、構造不備ノ爲

一、燈火、石油ナル爲

一、暖火、暖爐ナル爲

C 附加率合計

依テM'在中物ナキ建物ノ率(U+C=M')

六五

此建物中ニ卸賣藥材ヲ貯藏セリト

セバ在中物率表(へ)中卸賣藥材ノ第

一欄ニ

一〇〇

(D')トアルヲ以テ(D'+D=M)ニヨリ

N、卸賣藥材ヲ藏スル建物率

一六五

以下必要ニ應ジ各種ノ附加率及ビ控除率ヲ施ストキハ前述ノ建物ノ保險金百弗ニ對スル一年間ノ保險料ヲ得ベシ。

(二) 同上建物中ニアル貨物保險料計算

前述ノ建物中ニアル小賣雜貨ノ保險料ヲ見出

サンニハ前ニ述ベタルガ如ク

$$M - \frac{1}{4}(M - A) + D' = U$$

ナルヲ以テ其貨物ノ標準率ハ

$$65 - \frac{1}{4}(65 - 25) + 0 = 55$$

ナリ、コレニ在中物率表(へ)中小賣雜貨ノ第二欄ノ料率(D')ヲ加フルトキハ小賣雜貨ノ保險料ヲ得、即チ

$$55 + 50 = 105.$$

若シ此建物中ニ小賣雜貨ノ外、卸賣藥材ヲ藏ストセバ小賣雜貨ノ第一欄ハ前記ノ如ク零ナルモ卸賣藥材ノ第一欄ニハ百仙ノ附加率アリ、從ツテ此建物中ニアル凡テノ貨物ノ標準率ハ前記ノ式ニヨリ、

$$65 - \frac{1}{4}(65 - 25) + 100 = 155$$

ナリ、之レニ夫々第二欄ノ料率ヲ加フレバ

$$\text{小賣雜貨} \quad 155 + 50 = 205$$

$$\text{卸賣藥材} \quad 155 + 85 = 240$$

即チ小賣雜貨ハ卸賣藥材ト同一建物中ニアルガ爲ニ其保險料ハ増加シテ二弗五仙トナレリ、コレヲ卸賣藥材ノ保險料二弗四十仙ト比スレバ三

十五仙ノ差アリ、此差ハ即チ此兩種ノ貨物自身

ノ火災ニヨル水、煙等ノ爲メニ被ル危險ノ度ノ

差ニシテ在中物率表第二欄ニ於ケル此兩貨物ノ

料率ノ差(即チ $85-50=35$)ニ相當ス、カクシテ

得タル料率ニ對シテ前節ニ說ベタル順序ニヨリ

必要ナル附加又ハ控除ヲナストキハ各商品ノ最

後ノ保險料ヲ得ルナリ、若夫レ「デバートメン

ト、ストア」等多クノ商品ヲ藏スル場合ニハ各

商品ニツキテ別々ニ第二欄ノ率ヲ加フルコトナ

ク、各商品ノ存在高ニ應ジテ算出シタル平均率

ヲ以テ全體ノ商品ノ第二欄ノ率トスルナリ。

尙此ニ附言スベキハ建物ノ保險料ト其中ニア

ル貨物ノ保險料トノ比例ハ其建物ガ完全ニシテ

標準ニ近ヅクニ從ヒ大ニシテ建物ガ不完全ナル

程小ナルコト是ナリ、

例ハ例(一)ニ於ケル建物(即チ在中物ナキ場

合ハ保險料六十五仙ナルモノ)ニ小賣雜貨在中

セリトセバ(小賣雜貨ノ第一欄ハ零ニシ

テ第二欄ハ五十仙ナルユヘ)建物及ビ商品

ノ率ハ夫々

$$\text{建物} \quad 65 + 0 = 65$$

$$\text{小賣雜貨} \quad 65 - \frac{1}{4}(65 - 25) + 0 + 50 = 105$$

然ルニ今建物ハ前述ノモノヨリ遙ニ完全ニシテ

其在中物ナキ場合ノ保險料二十九仙ナリトセバ

其建物ノ保險率ト其中ニアル小賣雜貨ノ保險率

ハ夫々左ノ如シ、

$$\text{建物} \quad 29 + 0 = 29$$

$$\text{小賣雜貨} \quad 29 - \frac{1}{4}(29 - 25) + 0 + 50 = 78$$

即チ知ル前ノ場合ニハ建物率六十五仙ニ對シ商

品率一弗五仙ナリシヲ後ノ場合ニハ建物率二十

九仙ニ對シ貨物率七十八仙トナリテ貨物率ハ建

物率ノ殆ンド三倍トナリタルヲ。

以上述べタル所ニヨリ知ラル、如ク標準火災

保險率表ニヨル保險料算出ハ稍手數ヲ要ス然レ

ドモムーア氏ハ以上ノ凡テノ要素ハ保險料ヲ定

ムルニ當リテ考量スベキ最少限ナリ、故ニ煩雜

ムルニ當リテ考量スベキ最少限ナリ、故ニ煩雜

ムルニ當リテ考量スベキ最少限ナリ、故ニ煩雜

ヲ避ケ此等ヲ看過シテ定メタル保險料ハ保險者ニ安全ニシテ且被保險者ニ公平ナルモノニアラズト極言セリ、加之、實際ニ於テ保險料ノ算出ニハ保險料計算表 (Rating Slip) トイフモノアリテ之ニ一々上述ノ保險料計算上考量スベキ項目及ビ其附加率又ハ控除率ヲ印刷シアリテ甚ダ計算ニ便ナラシムルヲ以テ、之ニ慣ル、ニ於テハ豫想スル程手數繁雜ナラズ、現ニ之ヲ使用セル保險代理業者ノ多クハ此等ノ項目ガ現今百五十ニ上レルニ拘ラズ、尙一層細密ニ之ヲ分類スルヲ便トスルニ至レリ、蓋シカク分類課率スルコトハ保險契約ヲ爲スニ當リテ、其検査スベキ凡テノ點ヲ指定シ、且相手方ノ何人ナルヤニ拘ラズ、一定セル率ヲ殆ンド機械的ニ適用スレバ可ナレバナリ。

以上ハ不耐火建物及ビ其中ニアル貨物ノ保險率算定ニツキテ述ベタルモノナリ、此他耐火建物及ビ其中ニアル貨物ノ保險率表モ、別ニ存在

スルモ、其計算ノ基礎ニ於テハ此ニ説ケル所ト大差ナキヲ以テ略ス、又或種ノ倉庫ニ於ケル貨物ノ料率ニツキテモ參考トスベキ所アルモ今ハ説カズ、尙詳細ヲ知ラント欲スル者ハムーア氏ノ前掲ノ著書ヲ參照スベシ。